住んでいるまちを知ろう

市のしごとあんない

みなさんは、自分たちの住んでいるまちをよくしっていますか。よそにいったとき、あなたのまちは、どんなところですかと聞かれたとき、すぐ答えられるように、よくべんきょうしておかなければなりません。

これから、わたしたちの住んでいるまちについて、いろいろとべんきょうしてみましょう。

市の人口は

ことしの七月一日現在の市の推計人口は、四万四千二百十四人、世帯数一万三千百十三です。これは、京都府下四十四市町村のうちで、九番目に人口の多いまちです。

明治十九年の人口三千五百二十八人、世帯数七百五十二とくらべると、ずいぶんとふえました。

まちのようすがかわる

人口がふえてくると、まちのようすが、だんだんとかわってきました。

いままでは、竹やぶにかこまれて、米づくりや野菜づくりがさかんにおこなわれていたのに、いまでは、田畑や竹やぶをきりひらきつぎつぎに家がたち、農業をする家がだんだんなくなってきました。

しかし、家がふえるとどうじにお店などがふえ、わたしたちが生活するのに、便利になりました。向陽小学校の前の通りには、大きな商店街ができましたし、阪急の東向日駅のまわりには、大きなスーパーマーケットができ、わたしたちのくらしに役立っています。

このように、市は、その姿を少しずつかえています。昔から、この土地に住んでいる人には、さびしい気がするかもしれません。しかし、わたしたちのまちが発展していくことは、うれしいことです。

市役所のしごと

わたしたちのまちを、さらに明るく住みよいまちにするには、大きな力が必要です。たとえば、水道、消防、保健衛生、学校などのしごとは、しみんではできません。そこで、市や県や国のたすけがいります。

そのしごとをしているのが市役所です。市役所では、みなさんがべんきょうしている学校やプール体育館をつくったり、毎日の通学路をつくったり、道をきれいにしたりしています。また、みなさんが病気にかからないように、いろいろな予防注射やゴミを集めたりそのほか、いろいろなしごとをしています。

このように、みなさんのために明るく住みよいまちづくりをめざして、みなさんの手だすけをしているところが、市役所です。

学校はいつたったの

……市でいちばん古い学校で、百年のれきしをもっています。明治五年につくられました。

▽向陽小学校……昭和四十一年に開校しました。

▽第二向陽小学校……昭和四十六年に開校しました。

▽第三向陽小学校……昭和四十一年に開校しました。

▽第四向陽小学校……昭和四十八年に開校しました。

▽第五向陽小学校……来年四月開校予定で、いま建てています。

わたしたちが、毎日かよっている学校はいつごろできたのでしょうか。

第五小を建てています

図書室を利用しよう

夏休みの読書

夏休み中の読書は、中央公民館の図書室を利用しましょう。

利用できるのは、小学生二年生からです。本の貸しだしもしていますので、よみたい本があったら借りてよみましょう。

（開室時間）

・平　日
午前九時～午後四時三十分

・日曜日
午前十時～午後四時三十分

・土曜日
午前九時～十一時三十分（ただし、八月三日は、午後四時三十分まで開いています。）

（図書室休室日）

七月二十八日（日）・八月四日（日）・五日（月）・十一日（日）・十九日（月）・二十五日（日）

夏休み中の小学生のみなさんにおすすめしたい本を紹介しましょう。

○「**大きい一年生、小さな二年生**」吉田足日著　偕成社

一年生の男の子と二年生の女の子の心のむすびつきとそのせいちょうのようすを生活の中からえがいています。

○「**赤ちゃんが生まれた**」長崎源之助著　大日本図書

大みそかの日に赤ちゃんが生まれ、たけし君が兄さんになるよろこびと家のお手つだいにはげむすがたをえがいたものです。

○「**嵐のまえ**」ヨング著　吉野源三郎訳　岩波書店

第二次世界大戦がはじまる半年まえから、はじまるまでの半年のあいだの中立国オランダの医師一家のものがたりです。

▽この「こども広報」は小学生のみなさんに、読んでもらおうと、編集したものです。

▽夏休みは、一年中でいちばん休みかんが長く、けじめある生活をすごさなければなりません。はじめから、計画をしっかりたてましょう。休みのおわりになって、あわてないように。

編集室

わたしたちのまちの歴史

長岡京はまちの遺跡

わたしたちの住んでいるまちは気候が暖かく、東むきの日のあたる、水利の便がよい、よくこえた土地であったため、早くからわたしたちの祖先が住んでいました。

また、瀬戸内海、淀川、桂川にそって、新しい米作の農耕技術が大陸から移入されました。そのことは、今から二千年ほどまえの弥生時代の水田遺溝がみつかった森本遺跡（第三向陽小学校）からもわかります。

やがて、民衆の中に有力な豪族がでて、死んだあとも権力の大きさをほころうと、大きな古墳をつくりました。市内には、元稲荷古墳、五塚原古墳、妙見山古墳、寺戸大塚古墳などがあります。

長岡京を造営

大化の改新後、奈良朝は七十年ほど栄えましたが、奈良の都もいろいろな弊害がでてきました。そのため、桓武天皇は七百八十四年都を「長岡京」に移しました。さいきんの発掘調査により、長岡京の造営も広いはんいで、建てられていたことなどがわかり、中心部の大極殿は、しせき公園として、のこっています。

しかし、いろいろな事情で、十年後に都は、平安京に移されました。

まちは戦場の地に

平安中期になると、班田制度が乱れ、権力者中心の荘園制度となり、この地も皇族公卿の荘園となりました。

源頼朝から北条氏に政権がうつったとき、承久の乱がおこり、向日神社の六人部氏などが上皇にみかたしました。

のちの後醍醐天皇の元弘の乱、南北朝の乱、応仁の乱には、京都の西いり口のげんかんであったため、つねにせんじょうの地となりました。

上方文化のえいきょうを

徳川時代になると、京都のこうがいとして上方文化のえいきょうをうけるとともに、京都所司代のかんかつかに入り、宮家、公卿、社寺の領地となり、物集女村、寺戸村、西土川村、白井村、鶏冠井村、上植野村とにわかれ、向日町は乙訓の経済の中心地でした。

昭和四十七年十月に市制

明治五年、西土川村と白井村とが合併し森本村となり、明治二十二年四月一日に市町村制がひかれ向日町がうまれました。また、郡役所、警察署、郵便局、裁判所などがおかれ、乙訓郡の中心地となりました。

昭和に入り、静かなたたずまいをしていた町も、昭和二十五年ごろから急速に開発され、昭和四十七年十月一日に市制をひき、みどりと歴史の多い住宅都市を形づくっています。